



志木二中だより

「勇気」 前に向かう強い心をもつ生徒

「信頼」 静かに考え他を認め励ます生徒

令和7年度11月号
令和7年11月 4日
志木市立志木第二中学校
志木市館 1-3-1
TEL:048-473-2379

顔の見えない社会の病理 顔の見える学校教育目指して！

校長 島村 直人

2学期も中盤戦にさしかかりました。季節は秋まっさかり、武蔵野を覆い尽くすかのようないわし雲。10月は、新人体育大会に始まり校内合唱祭で終わるというように、様々な校内外の行事が満載でした。そして、その中で、志木第二中学校の力、志木二中学生のよさが思う存分発揮され、うれしい限りです。

私は、時間の許す限り多くの試合会場に応援に向かうようにしています。新人体育大会では、2年生を中心にどの会場でも素晴らしい攻防が繰り広げられました。声を出し、決して試合をあきらめない姿に感銘しました。各会場では多くの保護者の方々にお声がけ頂きました。皆様には新人戦の引率やたくさんの応援に感謝いたします。部活動や学校行事へのご協力に心よりお礼申し上げます。また、先月31日の音楽祭では、素晴らしいハーモニーで体育館がいっぱいになりました。志木二中の歌声は天下一品です。それにかける生徒たちの真剣な表情も自慢の一つです。多くの方々のご来校ありがとうございました。

合唱でも部活動でも、ある一定の成果をあげるにはそれ相応の努力が必要です。教員も時に厳しく指導し、時に檄を飛ばすこともあります。しかし、今の時代、子供達が生きていくうえでの厳しさが他にあるでしょうか。物質的に何不自由なく暮らしている子供にとって、時に叱咤され、時に厳しい言葉で指導されることは、子供にとって大きな意義があり、特に心の成長にとって必要とさえ私は思います。受容・容認だけでは子供は強く育ちません。もちろん、子供の人格を傷つけるような言動は論外です。それはもう“教育”でも“指導”でもありません。言葉の暴力はいつどこであっても厳禁です。“厳しさ”は、あくまでも教師と生徒とが対面し、子供達のために成長を願いかける言葉だからこそ成立するものです。その中で、人は言葉の使い方やその調整、感情のコントロールなどを体で学んでいきます。いわゆる人との接し方、社会性が育つのです。

ところが、近年のネットの発達によって言葉の調整が狂ってきているように思えてなりません。SNSでは、気に入らないことがあるとすぐに反論を書き込みます、自分と少しでも意見が違うと、感情的にぶつかり合ってしまいます。世の中が、自分と異なる意見に対する「こらえ性」がなくなっている感じがします。学校に寄せられるクレームの大半が匿名です。自分の見方・論理のみで学校を攻撃する方も少なくありません。そこには、相手との距離感をはかり、言葉をコントロールする姿勢が感じられません。一番大事な子供がどこかに行ってしまっていることもしばしばあります。私としては、顔を見ながら対面して対応させていただきたいのですが、なかなか叶いません。子供が中心にある示唆に富む箴言であればぜひお聞きしたいとすら思っています。

人と人とがもっと「あそび」「ゆとり」をもって対面して話し合う時間を大切にし、「顔の見える関係」をつくりあげていきたいものです。